

おわりに

建設コンサルタンツ協会近畿支部の研究委員会は、昭和43年にS.R.C研究委員会が発足して以来53年間、60テーマ以上に及ぶ研究活動を通して、脈々と受け継がれてきました。まさに近畿支部の技術の根幹をなす歴史と伝統のある活動です。このように永きにわたり継続されてきたことは、ひとえに研究委員会に携わられた先達や関係各位の協力と支援の賜物であると感謝いたします。

維持管理に関する研究委員会は社会ニーズもあり平成22年(2010年)から始まり、このたび、インフラメンテナンス研究委員会は第Ⅱ期の研究成果を踏まえ、新たに令和3年度より活動をはじめ、3年間の成果を報告書としてとりまとめました。当研究委員会は保全事業の効率的推進と品質確保・向上を目的とし、5分野の分科会より構成されております。

本委員会の報告書の内容は、近畿地方整備局および地方自治体の皆様の維持管理に関する要望もお聞きしながらテーマを決めて参りました。すなわち、現場のニーズに寄り添った内容になっております。かなりボリュームはありますが、具体的な維持管理、補修などの事例や手法選定の流れなど細かく記載されており、実務者には有益な資料となっております。また、最近の新技术を実際に利活用した結果での評価を行っており、今後、新技术を利用する上で有益な情報を記載しております。さらに、補修、対策工については事例を一定の書式で整理しており、さながら図鑑のような整理もしております。経験の浅い技術者でも疑似体験が行えると考えております。

各分野では総意工夫して報告書を作成しております。是非、活用していただければ幸いです。社会変化はこれからも起こります。本委員会も社会ニーズに沿ってまだまだ勉強していくことが多く、継続していく所存です。

最後になりましたが、本報告書を作成するにあたり、アンケートや現地調査にご協力いただきました自治体の施設管理者の皆様、各工法に関する資料をご提供いただきました各メーカーの皆様、ならびに、各分科会におきまして、既存成果から本報告書への転載および貴重なデータのご提供等ご協力いただきました近畿地方整備局の皆様には、ご多用の中、活動の趣旨をご理解いただき真摯に対応していただきましたことに感謝申し上げます。また、通常業務に加えて、昨今の災害への緊急対応により限られた時間の中で、本報告書を取りまとめて頂いた委員の方々、ご協力をいただいた近畿支部の関係者の方々に心から厚く御礼を申し上げます。

令和6年9月

(一社)建設コンサルタンツ協会近畿支部
インフラメンテナンス研究委員会Ⅱ 副委員長 梁田信河